

三菱ガス化学株式会社「2023年度第2四半期決算説明会」質疑応答要旨

日時 : 2023年11月10日(金) 11:00 ~ 12:00 (WEB説明会)

説明者 : 代表取締役社長／藤井 政志

取締役 常務執行役員 基礎化学品事業部門担当／長岡 成之

取締役 常務執行役員 機能化学品事業部門担当／山口 良三

財務経理部長／近藤 亨成

(本資料に関する注意事項)

本資料については、上記説明会での質疑応答について、加筆・修正を加え、当社の判断で簡潔に纏めたものであることをご了承ください。また、説明会資料同様、記載されている計画、目標等の将来に関する記述は、説明会当日現在において当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいて判断したものであり、不確実性を内包するものです。実際の業績等は、様々な要因によりこうした将来に関する記述とは大きく異なる可能性があります。

Q1: 光学材料の収益は前年上期比で減少したものの、2Qに需要回復傾向とある。在庫調整が終わったのか、もしくは新しい用途が拡大しつつあるのか。またBT材料は、半導体関連において非常に厳しい状況が続いているものの、回復傾向とのことだが、1Qから2Qにかけての回復状況や、下期に向けての見方を教えてほしい。POMは市況下落とのことだが、競合他社の業績は比較的安定しているように見受けられる。自動車関連需要回復に伴う見通しは。さらにEL薬品は、同じく半導体関連のBT材料と方向性に違いがあるのか、今後どのように展望しているか。

A1: 光学材料は、前年度とほぼ同レベルと認識している。ハイエンドスマホの出足は好調で、順調に進むものと見通している。BT材料は、半導体関連需要が底打ちし踊り場を迎え、往時の勢いにまでは届いていないが、当社の得意なスマートフォン向けやパソコン向けの発注回復等が一定程度捉えられており、来年3月まで勢いを持って進めていきたいと考えている。POMは、市況のピークを迎えた昨年7月と比較して価格が15%以上下落している。世界的な自動車需要の減少、中国や欧州の経済低迷等が背景にあった。日本を含め自動車生産の回復が見られてもいるが、当社は電気機器やOA、アパレル向け用途を多く持っており、自動車需要回復の恩恵を受けきれていない。期待した中国市場においても、消費需要の縮減が続いている。なおOA関係については、中国の生産拠点が東南アジアにシフトする過渡期にあり、需要の減少に繋がっているものの、移行が完了すれば需要は必ず戻ってくるものと理解している。最後にEL薬品の動きだが、BT材料の動きとはやや異なり、BT材料の方が底打ちは早く、EL薬品はそれに続くと思っており、下期もまだ厳しい状況が続くと見ている。

Q2: BT材料の需要は受注という形で下期回復がある程度見えているのか。光学材料も確度は高いとみてよいのか。新機種のレンズがペリスコープ型になり使用量が大幅に減るのではと危惧していたが。

A2: BT材料はハイエンドスマホの発売が続くと思われ、順調に進めば当社想定通りになると考えている。光学材料も、特段多く使用されることもないが減りもせず、比較的固めに見られると思っている。

Q3: 新中計骨子について、「事業ポートフォリオの強靱化」にはこれまでも取り組んでいると思うが、考え方で従来の中計から変えたい部分があるのか。また「サステナビリティ経営の推進」を明示しているが、MGCは「カーボンニュートラル実現」によって特に恩恵を受ける日本企業だと思っているが、2027年度までの3年間で事業化の手前の段階まで持っていくイメージなのか、あるいはその前の準備段階にとどまる見込みか。先の長い話だが、バリュエーション拡大に繋がることを期待している。「人的資本経営の充実」についても考えていることがあれば教えてほしい。

A3: 「事業ポートフォリオの強靱化」は、基本的には従来の延長線上で考えている。現中計で達成できなかった部分は反省しつつ、投資の面ではより標準を絞り、例えば半導体関連事業に重点的に投資していきたい。また新規事業の研究開発が遅れているため、しっかり取り組んでいかなければならない。医・食領域、特に医療関係において新しい組織を作ることも含め具体的に検討している。「サステナビリティ経営の推進」について、カーボンニュートラル実現は当社にとって収益に繋がる大きなチャンスと考えている。これから先進的 CCS が進んでいくが、来年春頃には法律も出来上がると思われ、これに応じて確りと取り組んでいきたい。環境循環型メタノール Carbopath はどのタイミングで具体化しビジネスに繋げていくかだが、水素価格がまだなかなか見えてこないのが実状。例えば水素キャリアについてもメチルシクロヘキサンなのかアンモニアなのかメタノールなのか水素そのものなのか答えは一つではなく、それによって値段が変わる。政府の補助についても注視し、リーダーとして働きかけながらビジネスに繋げていきたい。最後に人的資本経営についてだが、当社はやはり従業員を中心に考えており、今年、給与制度改定等により少しアップさせる方向で既に走り始めている。また、教育研修にもお金をかけていきたい。不確実性の時代、一人一人が自立できるようになってもらいたいという思いもあり、MGC Commons という研修センターも新たにスタートさせ、グループ全体のレベルアップを図りたいと考えている。

Q4: 特殊機能材セグメントの売上高の伸びに対して利益の改善幅は非常に高くなっており、営業利益率は 25%となっている。下期の経常利益率は 27%を想定しており、この稼働率でこれだけの利益を出すことに驚いているが、何か販売ミックスの改善が BT 材料の中であったのか。OPE のように、AI 関連のマザーボード向けで販売が増加しているのか。販売ミックスの改善、収益性の改善の背景を詳しく教えてほしい。

A4: OPE は販売数量の伸びが期待され、利益率の高い製品であり、セグメントのポートフォリオの改善、利益率の向上を期待することができると考えている。まだ現状の規模的には今後が楽しみというレベルであると捉えてほしいが、増販は盛り込んでいる。BT 材料に関しては、稼働率が採算に大きく影響するため、稼働率の向上により採算も良くなる。

Q5: OPE に関して、上期や通期で区切った場合にどれくらい伸びているのか。例えば NVIDIA の GPU のマザーボード向け材料としてデファクトになっているのか。GPU のマザーボードは、大型の基板であることに加えて複層であるため非常に期待しており、詳しく説明してほしい。

A5: OPE は、高周波・高速通信が世界的に広がる中、製品特性がマッチすると期待している。但し AI サーバーやこれに使用される GPU の生産量は必ずしも半導体全体の需要を引っ張り得る規模感には至っていない。今後 OPE の需要が伸びることを想定して増販体制を組んでいるところだが、AI サーバーに引っ張られる形で、通常のサーバーも進化を続けると予想されるため、そのような分野にも採用されるよう拡販作業を進めている。加えて周辺材料であるメモリや他の半導体の高度化、使用個数の増加も期待している。

Q6: OPE はマザーボード向けで伸びているという理解で問題ないか。

A6: その認識で間違いない。

Q7: JSP の非連結化は英断だったと思うが、これまで様々な方法でシナジーを追求されていた中、この決断に至った背景を教えてください。また上海 PC やシート・フィルム、MEP といったエンブラや、汎用キシレンチェーン、MMA 系製品など、収益性の低い或いは赤字事業の改革についても方向性等を教えてください。

A7: JSP とはシナジーの追求を行ってきたが、事業フィールドが多少違うということもあり、お互いが自由度を高めたほうが良いという判断をして、非連結子会社化を決定した。今後については、JSP も上場企業のためここでの具体的な発言は避けたい。当社としてはポートフォリオ改革に繋がる形になったと考えてお

り、経済指標である ROE や ROIC についても、改善する方向だと考えている。JSP については各方面から意見があるため、皆様方の意見や株式市場の判断も仰ぎながら議論していきたいと考えている。上海 PC や PC シート・フィルムについても手を打っていき、MEP 連結化による世界的な販売活動には大いに期待している。芳香族系の PIA 関係は、チェーンの MXDA やアルデヒド類をしっかりと販売していくことに注力していきたいと考えている。MMA 系製品は必ずしも赤字事業ではないと考えており、有機化学品事業の一つの柱であることから、時間をかけながらどういう形が良いのか、しっかりと捉えていきたい。

Q8: 次期中計の中で、構造改革に関する構想がある程度示されるという理解で良いか。

A8: 来年 5 月の次期中計発表の段階で全ての答えが出ていると断言することはできないが、今の形が 10 年後 20 年後も永遠に続いているというイメージは持っておらず、大きく変えていきたいと考えている。

Q9: BT の売上予想がかなり強い印象だが、どのような要素が下期に織り込まれているのか。メモリの戻りか。銅張積層板の伸びによる売上金額の増加か。基板の面積化がポジティブに働いているのか。

A9: 当社の強いスマートフォン向けで、Android 系など新機種投入が順次図られることを想定している。メモリの戻りは若干の遅れを反映したが、在庫調整が進んでいるという情報もあり、年明けには一定程度の回復期待を織り込んだ。基板の面積化により予想が強気になっているということはない。

Q10: OPE は、他社のマザーボード向けに販売しているという理解だが、将来的に自社の板材に OPE を使ってビジネス展開するというアイデアはあり得るか。

A10: 商品設計戦略の詳細はお話できないが、チャンスがあれば取り組んでいくのは一般的な話としてはあり得るし、使えるものであれば排除しないという方向で材料開発を進めていきたい。

Q11: 為替影響について、日本は為替メリットが出ると思うが、タイのコストはパーツ建てか、ドル建てか。

A11: 円建てもあり、良くも悪くも為替の影響を受けづらいスキーム作りに取り組んでいる。

Q12: ポリカーボネート樹脂について、各拠点の足元の状況と下期見通しについて整理してほしい。

A12: 事業構造改革に取り組んでいる。コストダウンについて、足元は原料ビスフェノール A が低位安定していることに加え、販売・在庫管理の徹底により、低価格法の改善も含め良い結果が表れてきた。高付加価値化も、自動車向け特定グレードの需要が非常に伸びており、特に中国市場において進んでいる。

Q13: 成長投資について、半導体関連事業に集中投下とのことだが、既に多くの投資を実施し固定負担も重くなっている中、更に大きく投資していく部分というのはどういったところか。好調な BT や OPE などが。

A13: 指摘の製品なども含め、顧客の計画等に従って適切に投資判断をしていきたい。なお既に投資を決定したのも数多く含まれており、先ずはその成果をしっかりと刈り取ることが重要と考える。

Q14: BT の台湾 JV に投資すると、リターンが社外に流出してしまうのではないか。

A14: 外部流出面の前に、いかにマーケティングをしっかりとできるかが重要と考えている。

Q15: インテルのガラスサブストレートは、BT 材料にマイナスのインパクトが出るのか。プラスもあるのか。

A15: 2020 年代の後半にマーケットに出てくる話だと認識しているが、やはり何らかの影響は受ける可能性はあると捉えており、プラス面がどう働くかも含めて分析をしているところである。

以上